

神祇官と八神殿

日本では古来神祇を尊んで祭祀を重んじたため、古代中国の令制にはない神祇官を太政官とは別に置いた。しかし現実には太政官の八省と同格であり、その権能は小さかった。神祇官の長官は神祇伯といい、従四位下相当官。これは、太政官の常置の長官たる左大臣（正二位または従二位相当）よりはるかに低く、左大弁・右大弁（従四位上相当）、大宰帥（従三位相当）、七省の長官たる卿（正四位下相当）より下である。

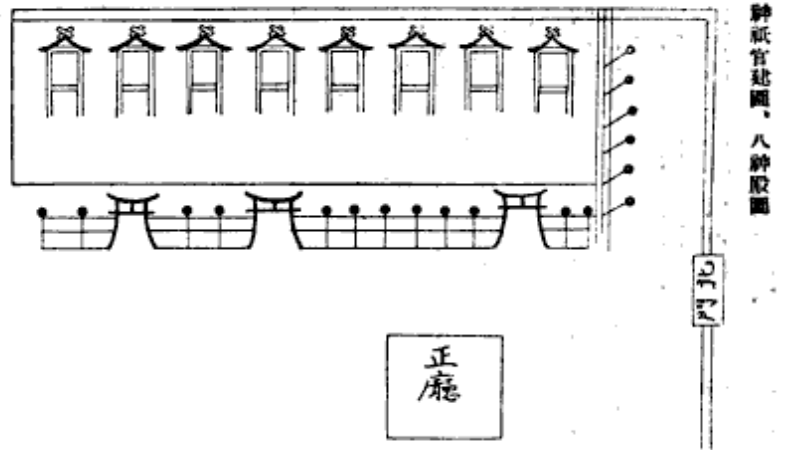


官衙の場所は上の地図の通り、現在の二条城の北側辺りにあったらしい。二条城の東に広川通りが通っているが、実はその堀川通のさらに東側に堀川が流れており、さらにその東側に東堀川通りがある。むかし、チンチン電車が通っていた通りで、私の家はそれに面していた。住所は「東堀川丸太町下がる」である。丸太町通を西に行くと千本通に出るがそこに平安京の大極殿があった。この地図でいうと、ちょうど図面の切れているところである。この地図に朱雀高等学校全日制という字が見えるがその南側が私の卒業した高校である。ちょうど朱雀門の東に当たる。私は二条城の北側を歩いて通学したのだが、今から思えば、平安京の宮内省神祇官の辺りを歩いて通学していたことになる。



上の地図に、ちょっと見にくいですが神祇官西院と東院というのがあるが、八神殿（はっしんでん）は神祇官西院に設けられた。八神殿は天皇を守護する八神を祀る神殿のことである。

右の図のように八つの神殿が並んでいたらしい。



八つの神殿に祀られていた神は、

神産日神、高御産日神、玉積産日神

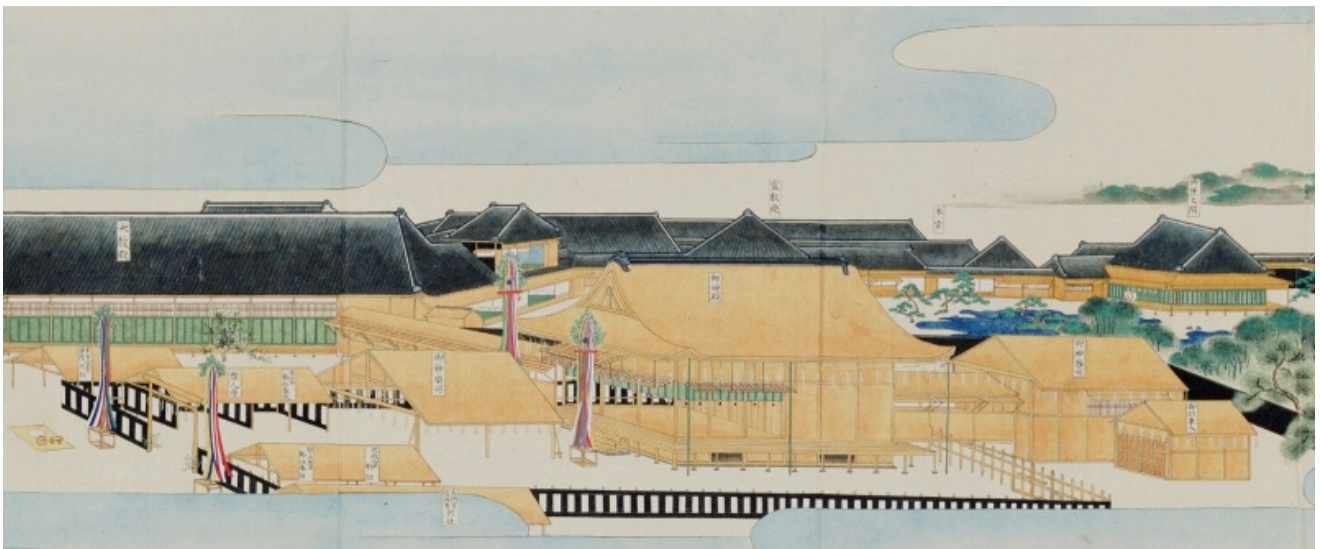
生産日神、足産日神

大宮売神、御食津神、事代主神

の八神である。

これら八神を中心としてさまざまな神が史記の誕生とともに誕生し、天皇の「聖性」が出来上がったのである。史記の編纂の一つの大きな目的は、天皇の「聖性」の確立にあったと思われる。

この八神殿は応仁の乱で焼失してからは宮中では再建されず、江戸時代に吉田家が吉田神社境内に、白川家が邸内にそれぞれ八神殿を創建して宮中の八神殿の代替としていた。明治維新により神祇官が再興され、明治2年（1869年）に神祇官の神殿が創建されて遷座祭が行われた。その際、八神殿の八神だけでなく、天神地祇と歴代の天皇の霊も祀った。明治5年10月、「八神殿」の名称を廃して「神殿」に改称、そして現在、神殿は宮中三殿の一つとなっている。



復興された神祇官神殿。現在の皇居前広場にあった

(<http://shinden.boo.jp/wiki/%E7%A5%9E%E7%A5%87%E5%AE%98%E7%A5%9E%E6%AE%BF> より)